

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2016-167902

(P2016-167902A)

(43) 公開日 平成28年9月15日(2016.9.15)

(51) Int.Cl.		F I				テーマコード (参考)
H02G	3/30	(2006.01)	H02G	3/26	G	5G309
B60R	16/02	(2006.01)	B60R	16/02	623D	5G363
H01B	7/00	(2006.01)	H01B	7/00	301	

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願2015-45495 (P2015-45495)	(71) 出願人	000002967
(22) 出願日	平成27年3月9日 (2015.3.9)		ダイハツ工業株式会社
			大阪府池田市ダイハツ町1番1号
		(74) 代理人	100105980
			弁理士 梁瀬 右司
		(74) 代理人	100105935
			弁理士 振角 正一
		(74) 代理人	100178995
			弁理士 丸山 陽介
		(72) 発明者	中西 一裕
			大阪府池田市桃園2丁目1番1号 ダイハツ工業株式会社内
		Fターム(参考)	5G309 AA09
			5G363 AA11 BA02 DA13 DC02

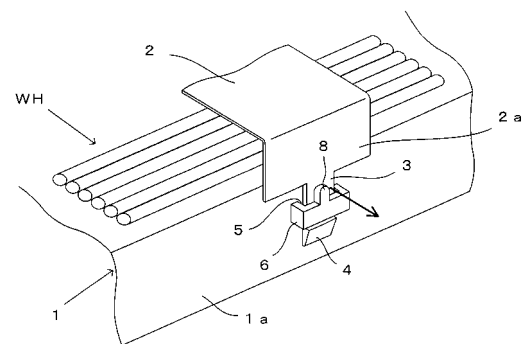
(54) 【発明の名称】 ハーネス保持装置

(57) 【要約】

【課題】保持されていたハーネスが意に反して解放されることを未然に防止できる保持装置を提供する。

【解決手段】係合部6の中央上端縁に突部8を形成し、脚部3の突部8を挟む2箇所をその弾性力に抗して押圧することにより、係合爪4の係合孔5との係合状態が解除されるようにする。そのため、脚部3の突部8を挟む2箇所に対して脚部3にその弾性力に抗する方向への外力が加わらない限り、係合爪4の係合部6との係合状態が解除されることがなく、意に反してワイヤハーネスWHが解放されてしまうのを未然に防止できる。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車両に配索されたハーネスを保持するハーネス保持装置において、
車両側の構造物に設けられ係合孔が形成された係合部と、
前記ハーネスの一部を覆うように配設されて前記ハーネスを保持する保持部材と、
前記保持部材の端縁に一体形成された弾性を有する脚部と、
前記脚部の先端における前記脚部の弾性力が向かう側に突出形成され前記係合孔に一方側から挿入されて前記係合孔の他方側に係合することにより前記保持部材を前記係合部に固定する係合爪と、

前記係合部の前記一方側の端縁に形成された突部とを備え、

前記脚部の前記突部を挟む少なくとも 2 箇所をその弾性力に抗して押圧することにより、前記係合爪の前記係合孔の前記他方側との係合状態が解除されることを特徴とするハーネス保持装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、車両に配索されたハーネスを保持するハーネス保持装置に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、自動車等の車両には、リレーやヒューズなどを収容した電気接続箱が設けられる。そして、通常この種の電気接続箱を車両構造物に取り付けるには、箱本体に設けられた弾性を有するロックアームに係合突起を設け、車両構造物に固定された固定板に形成された係合孔に、箱本体側の係合突起に係合させることにより、箱本体に車両構造物に取り付けることが提案されている（特許文献 1 参照）。

【0003】

また、電気接続箱の蓋体と箱本体の固定も、上記した係合爪の係合孔への係合により行われることが多く、これ以外にもハーネスを車体構造物に固定、保持する場合などに、係合爪の係合孔との係合構造が一般的に採用されている。具体的には、図 2 に示すように、保持部材 21 の端縁に下方に垂下して一体に形成された弾性を有する脚部 21a の先端に、傾斜面を有する係合爪 21b を一体形成し、車両構造物 22 に設けられた係合部 22a に上下方向の係合孔 22b が透設され、保持部材 21 の係合爪 21b が係合孔 22b に上方から挿入され、係合爪 21b の上端縁が係合孔 22b の下面に当接することにより係合爪 21b が係合部 22a に係合し、これにより保持部材 21 が車両構造物 22 に取り付けられると同時に、ハーネスであるワイヤハーネス WH が保持部材 21 によって抑えるようにして保持される。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2003 - 23716 号公報（段落 0003 ~ 0006 および図 5 参照）

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

ところで、図 2 に示す従来の係合爪 21b の係合孔 22b との係合構造の場合、ワイヤハーネス WH の保持を解除するには、係合爪 21b が形成されている脚部 21a が図 2 中の矢印方向への弾性を有しているため、この弾性力に抗して図 2 中の矢印と反対方向に脚部 21a を押圧することによって、係合爪 21b の上端縁の係合孔 22b の下面との当接を解除し、係合爪 21b の係合部 22a との係合状態を解除することにより、係合爪 21b を係合孔 22b から抜き出して保持部材 21 を車両構造物 2 から取り外し、保持されていたワイヤハーネス WH を解放することが可能になる。

【 0 0 0 6 】

しかし、ワイヤハーネス W H の保持を解除する意図がないにもかかわらず、例えば作業者が作業中に脚部 2 1 a に接触することにより、脚部 2 1 a がその弾性力に抗して図 2 中の矢印と反対方向に押圧されるなどの意図しない外力が脚部 2 1 a に加わると、係合爪 2 1 b の係合部 2 2 a との係合状態が解除され、保持されていたワイヤハーネス W H が意に反して簡単に解放されてしまうおそれがある。

【 0 0 0 7 】

本発明は、保持されていたハーネスが意に反して解放されることを未然に防止できる保持装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 8 】

上記した目的を達成するために、本発明のハーネス保持装置は、車両に配索されたハーネスを保持するハーネス保持装置において、車両側の構造物に設けられ係合孔が形成された係合部と、前記ハーネスの一部を覆うように配設されて前記ハーネスを保持する保持部材と、前記保持部材の端縁に一体形成された弾性を有する脚部と、前記脚部の先端における前記脚部の弾性力が向かう側に突出形成され前記係合孔に一方側から挿入されて前記係合孔の他方側に係合することにより前記保持部材を前記係合部に固定する係合爪と、前記係合部の前記一方側の端縁に形成された突部とを備え、前記脚部の前記突部を挟む少なくとも 2 箇所をその弾性力に抗して押圧することにより、前記係合爪の前記係合孔の前記他方側との係合状態が解除されることを特徴としている（請求項 1）。

【発明の効果】

【 0 0 0 9 】

請求項 1 に係る発明によれば、係合部の一方側の端縁に形成された突部を設け、脚部の突部を挟む少なくとも 2 箇所をその弾性力に抗してほぼ同時に押圧することにより、係合爪の係合孔の他方側との係合状態が解除されるようにしたため、脚部の突部を挟む 2 箇所に対して弾性力に抗する方向への外力が加わらない限り、係合爪の係合部との係合状態が解除されることがなく、保持されていたハーネスが意に反して解放されるのを未然に防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 0 】

【図 1】本発明に係るハーネス保持装置の一実施形態の斜視図である。

【図 2】従来例の斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 1 】

本発明に係るハーネス保持装置の一実施形態について、図 1 を参照して詳細に説明する。

【 0 0 1 2 】

車体に取り付けられた車両側の構造物であるリレーやヒューズなどを収容した樹脂製の電気接続箱にワイヤハーネス W H を保持する保持装置は、図 1 に示すように構成されている。すなわち、図 1 に示すように、コ字状を成す樹脂製の保持部材 2 が設けられ、この保持部材 2 の一方の屈曲片 2 a の下端に、図 1 中の矢印方向への弾性を有する脚部 3 が下方に延出して一体形成されるとともに、脚部 3 の下端に傾斜面を有する断面くさび状の係合爪 4 が一体形成され、脚部 3 に対向する電気接続箱 1 の側面 1 a に、上下方向に矩形状の係合孔 5 を有するコ字状の係合部 6 が外方に突出して一体形成され、保持部材 2 の他方の屈曲片（図示省略）の下端が電気接続箱 1 に回転自在に枢支された状態で、保持部材 2 の係合爪 4 が係合孔 5 に上方から挿入され、係合爪 4 の上端縁が係合孔 5 の下面に当接することにより係合爪 4 が係合部 6 に係合され。これにより電気接続箱 1 の上面と保持部材 2 との間にワイヤハーネス W H が挟持されて保持される。

【 0 0 1 3 】

さらに、係合部 6 の中央上端縁にアーチ状に上方に突出して突部 8 が一体形成されてお

10

20

30

40

50

り、保持部材 2 の係合爪 4 が係合孔 5 に上方から挿入されて、係合爪 4 の上端縁が係合部 6 の下面に当接して係合爪 4 が係合部 6 に係合した状態では、突部 8 が邪魔になって脚部 3 の弾性方向である図 1 中の矢印と反対方向に脚部 3 の中央部分を押すことができない構造になっている。ここで、保持部材 2 の他方の屈曲片側にも、一方側と同様に、係合爪と係合孔との係合構造を採用してもよい。

【 0 0 1 4 】

そして、係合爪 4 が係合部 6 に係合することにより、電気接続箱 1 の上面と保持部材 2 との間にワイヤハーネス W H が保持された状態から、ワイヤハーネス W H の保持を解除するには、脚部 3 の突部 8 を挟む 2 箇所をその弾性力に抗して図 1 中の矢印と反対方向に脚部 8 をほぼ同時に押圧することによって、係合爪 4 の上端縁の係合部 6 の下面との当接が解除され、係合爪 4 の係合部 6 との係合状態が解除されることにより、係合爪 4 を係合孔 5 から抜き出して保持部材 2 を電気接続箱 1 から取り外すことができ、保持されていたワイヤハーネス W H を解放することができる。

10

【 0 0 1 5 】

このとき、脚部 3 の突部 8 を挟む 2 箇所のうち一方側のみを押圧しても、脚部 3 の弾性力を上回るほどの押圧力が脚部 3 に加わらず、脚部 8 が弾性力に抗して変形しないため、係合爪 4 の上端縁の係合部 6 の下面との当接が解除されることはなく、例えば作業者が作業中に誤って脚部 3 に接触しても、脚部 3 が不用意に変形して、係合爪 4 の係合孔 5 との係合状態は保持される。

【 0 0 1 6 】

20

したがって、上記した実施形態によれば、係合部 6 の中央上端縁に突部 8 を形成し、脚部 3 の突部 8 を挟む 2 箇所をその弾性力に抗してほぼ同時に押圧することにより、係合爪 4 の係合孔 5 との係合状態が解除されるようにしたため、脚部 3 の突部 8 を挟む 2 箇所に対して脚部 3 にその弾性力に抗する方向への外力が加わらない限り、係合爪 4 の係合部 6 との係合状態が解除されることがなく、意に反してワイヤハーネス W H が解放されてしまうのを未然に防止することができる。

【 0 0 1 7 】

なお、本発明は上記した実施形態に限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない限りにおいて上述したもの以外に種々の変更を行なうことが可能である。

【 0 0 1 8 】

30

また、上記した実施形態では、突部 8 を 1 個だけ設けた場合について説明したが、2 個以上の突部 8 を係合部 6 に設けてもよい。

【 0 0 1 9 】

また、上記した実施形態では、車両側の構造物である電気接続箱 1 と保持部材 2 との間にワイヤハーネス W H を保持する場合について説明したが、車両側の構造物は電気接続箱 1 に限るものではなく、床パネルやドアパネルなどの車両構造部材であってもよいのはいうまでもない。

【 0 0 2 0 】

また、上記した実施形態では、ワイヤハーネス W H を保持する例について説明したが、ワイヤハーネス W H に限らず、車両に配索されるその他のハーネス全般に対して本発明を適用することができる。

40

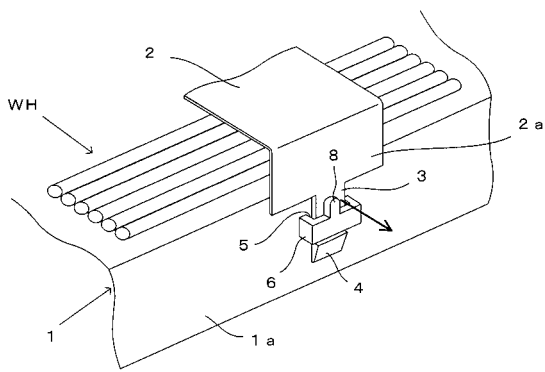
【 符号の説明 】

【 0 0 2 1 】

- 1 ... 電気接続箱（構造物）
- 2 ... 保持部材
- 3 ... 脚部
- 4 ... 係合爪
- 5 ... 係合孔
- 6 ... 係合部
- 8 ... 突部

50

【図 1】



【図 2】

